

第5回高知県立病院経営健全化推進委員会 要旨

1 日時

平成24年8月22日（水）10時から12時まで

2 場所

高知共済会館 3階 藤

3 出席者

委員：武田委員長、宇田委員、杉浦委員、中澤委員

公営企業局：安岡公営企業局長、大原公営企業局次長

県立病院課：浅野県立病院課長、濱田課長補佐、山脇課長補佐、

井上チーフ、水田チーフ、北條チーフ

梶原、松本、前田

あき総合病院：前田院長、福井事務部長、西田看護部長、山本チーフ

幡多けんみん病院：橋院長、丑本事務部長、山本看護部長

4 議事要旨

(1) 経営状況について

- 県立病院課説明（県立病院課長）資料1、2
 - ◇ 平成23年度決算報告及び高知県立病院改革プラン（第4期）の実績報告
 - ◇ 高知県立病院改革プラン（第4、5期）の取組状況
- 両病院から補足説明（病院長）資料3

[質疑]

- 医師会では、県立病院は、それぞれの地域の基幹病院として入院や救急に特化してもらいたいという意見がある（委員）
→これまでも外来を縮小して急性期入院に特化してきたが、地域性もあり、直接、病院に受診するケースがある（幡多けんみん病院）
- 公立病院改革ガイドラインのネットワーク化について、どのように考えているか（委員）
→現在有している病院機能をベースに、地域の医療機関と連携を進めていく（県立病院課）
- 医師の負担軽減についての取り組みはあるか（委員）
→医師事務補助の増員を図ってきたところであるが、十分とは言えないので、今後もスタッフの充実を図りたい（あき総合病院）
- 安芸病院の人件費比率が高い原因は何か（委員）
→医業収益に関わらず、給与費は固定となるため、医業収益が減少すれば、相対的に人件費比率が高くなる構造となっている
また、26年度の新病院開院時には病棟が一つ増える関係で、職員の前倒し採用を進めていることも原因の一つ（県立病院課）
- 幡多けんみん病院は、経営指標がそれほど悪くない中で赤字となっており、どうすれば収支改善ができると考えているか（委員）
→平成23年度は、特別損失など特殊要因が重なったことが原因であり、今年度は病床利用率が改善傾向にあることから、ある程度改善できると考えている（幡多けんみん病院）
- 幡多けんみん病院の医療圏域が広がったことについて詳しく説明を求める（委員）
→医師不足等の影響により、救急搬送などで愛媛県南予及び高幡医療圏の患者が幡多けんみん病院を受診するケースが増えているため（幡多けんみん

病院)

- 県の施策によるバックアップを受けるためにも、レセプト情報の分析や消防から救急搬送等の情報を入手するなどして、両病院の診療圏域を分析することが重要（委員）
- 平成26年度にあき総合病院で電子カルテを導入するとのことであるが、外来だけでも今の病院で電子カルテを導入することで、新病院に紙カルテを持って行かなくて済むことや、マスター作りの勉強となるなど、メリットがあるので検討してはどうか（委員）